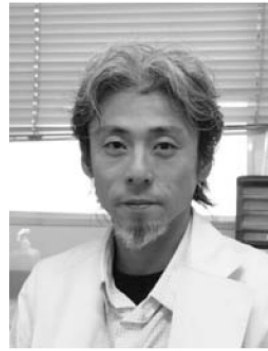


# 「認知症」



老健施設長  
外科医師

衛藤 大典

山香病院だより vol.72

みなさんこんにちは。

高齢化社会を迎えて、癌と同じように問題となってきたいる病気に認知症があります。

認知症は、脳梗塞や脳出血の後遺症として出てくるものや神経や脳細胞の変性によって出てくるものなどいくつかの種類があります。代表的なものとしてアルツハイマー型認知症、脳血管型認知症などがありますがそれぞれの型によって認知機能の低下の仕方がずいぶん異なり進行の仕方も違います。しかし多くは加齢とともに起こってくるものでいろんな要素が複合的に作用して症状が出てることが多いようです。

神経細胞は一度損傷すると回復が困難とされていますが、最近の研究では損傷した神経細胞の失われた働きを、周囲の健康な細胞が手助けをするよ

うに再生してくることが知られるようになりました。実際には作業療法などのリハビリテーションを効率的に行い適切な薬物治療で進行を抑えることもできます。中には認知機能が目に見えてよくなり家族に喜ばれることもあります。

認知症による問題の本質は、物忘れや徘徊など他人が困ってしまうような行動をとつてしまつたため家族や友人などこれまで患者さん本人が生きてきた中で培われた関係性が崩れてしまうことにあります。家族が一生懸命になつてお世話をしようとして試みても、本人が頑として拒否してしまえば足は遠のき患者さん本人はますます孤独に陥つてしまいます。そうなると認知機能の低下はさらに進み入所ができる施設にまかせつきりになっている場

合もあるようです。施設としても夜中に大声を出したり毎日のように徘徊したりする患者さんは、他に入所されている人達のことを考えて受け入れが難しいという場合もあります。今後も高齢者人口は増加し認知症を有する患者さんが増えることを見込んで、地域全体で認知症の方を暖かく見守つていこうという取り組みが全国的になされており、大分県でもいくつかの地域ではすでに開始しています。

具体的には相談ができる窓口をわかりやすく、かつ数を増やし家族の負担軽減を担います。それからその人に合った生活が保てるような支援策を家族と一緒に考えていきます。

認知症も他の病気と同じようにとらえ、早期診断、早期支援、危機回避支援を実現していくことで進行を防ぎ、人間らしい尊厳を保ち、本人、家族ともに笑顔で過ごせるような社会を造つていく必要があります。

孤独死や老老介護による精神的肉体的疲労ののちの殺人など、悲しい事件が起こらないようそれぞれの介護施設や病院、診療所などが協力しあつて切れ目のない支援を実現していきたいといけないと考えています。